

日本物理学会領域2役員会議 議事録案

日時: 2022年3月15日(月) 19:00-20:00

Zoom オンライン開催

司会: 領域2代表 稲垣, 千徳, 本島, 小林, 四竈, 佐野, 金子, 齋藤, 相羽, 藪内, 書記:
沼田

事前配布資料: 領域2役員会議-オンライン 20220315_v1.pptx

報告・議論事項

- 1) 2022年4月からの役員体制・役割分担
- 2) 新役員の推薦と領域代表, 領域副代表の候補について
- 3) 2021年秋季大会学生優秀発表賞に関する報告
- 4) 若手奨励賞(第16回(2021年))に関する報告
- 5) 米沢富美子記念賞授賞について
- 6) 2022年秋季大会 シンポジウム・招待講演等の提案
- 7) 領域委員会報告
- 8) 確認事項
- 9) 講演件数の推移
- 10) 講演概要集提出率
- 11) その他

報告・議事内容

- 1) 2022年4月からの役員体制・役割分担

下記体制を運営会議で承認する。

領域代表 千徳 靖彦 (大阪大学)

領域副代表 藤堂 泰 (核融合研)

領域前代表 稲垣 滋 (九州大学)

運営委員 (小林, 佐野, 沼田, 本島, 相羽, 福田)、役員 (藪内, 四竈, 齋藤)

役員分担については特に不備がないので継続とする。

- 2) 新役員の推薦と領域代表, 領域副代表の候補について

2022年10月からの次期役員の候補として以下の3名を推薦する。

佐々木 真 (日大)、三瓶 明希夫 (京都工繊大) 菊池 崇史 (長岡技科大)

2022年4月からの領域代表、副代表として以下の通り推薦する

領域代表 千徳 靖彦（大阪大学）

領域副代表 藤堂 泰（核融合研）

3) 2021年秋季大会学生優秀発表賞に関する報告

34名の応募者から、以下5名を選出。なお、2021年秋季大会から受賞回数の上限が2回までとされた。

- Adulsiriswad Panith (Grad. Sch. of Energy Sci., Kyoto Univ.)
「Study of the Interaction between Peripheral Energetic Particle Mode and Energetic Particles in Heliotron J with MEGA, a Hybrid MHD Simulation with Free Boundary Condition」
- 太田 雅人（阪大レーザー研）
「相対論的電子ビーム電場の超高速時空間分布計測」
- 川崎 昂輝（阪大レーザー研）(2回目)
「ダイヤモンドカプセルの直接照射型レーザー核融合への適用」
- 國嶋 友貴（東北大院工）
「非自己維持直流放電プラズマ中の窒素振動分布の時間発展」
- 茶谷 智樹（京大院工）
「ヘリウム原子輝線のゼーマン効果高感度計測を利用した分光と輸送計算の局所比較」

4) 若手奨励賞（第16回（2022年））報告

6名の応募者から、以下の2名を選出。

- 川面 洋平（東北大学学際科学フロンティア研究所）
研究題目：天体プラズマ乱流中のイオンと電子の加熱配分に関する研究
- 藤井 恵介（京都大学工学研究科）
研究題目：多電子原子や重元素核からの発光スペクトルに対する統計的モデリング

審査委員会から、審査項目、公募要領（提出書類など）、受賞規定・細則に関して検討する必要があるとのコメントがあった。懸案事項を次期審査委員会に伝達するプロセスが必要である。軽微なものは次回公募前に修正する、大きな修正に関しては、稲垣、千徳、金子でワーキンググループを組織して修正案を検討した上で次回運営会議に諮る。

5) 米沢富美子賞の受賞について

2022年度第3回の受賞者として、領域2から推薦の岩田夏弥さん（大阪大学）が受賞されたことが報告された。

引き続き、領域 2 からの積極的な推薦を促していく。
次回募集のアナウンスはまだない。

6) 2022 年秋季大会シンポジウム等の提案

企画講演 (0 件提案)

招待講演 (1 件提案)

田中 和夫 (ELI-NP)

シンポジウム (1 件提案)

「動的秩序構造の発生・持続・進化をとらえるメタステート学の創成に向けて」(説明：
千徳)

領域 11, 12 と合同

学会の公募受け付けは 5 月上旬までなので、引き続き提案を受け付ける。提案者は申し込み前に役員会に案を提出。運営会議後は、提案はメーリングリストで審議する。

提案についての、注意事項が確認された。

- ・ シンポジウムは休憩時間を含めて 3.5 時間まで。
- ・ 招待講演候補者の共著者は提案者になれない。
- ・ 提案書には **reference** を含める。
- ・ シンポジウムでは同じ所属から 2 名以上は認められないので、重複がない所まで所属部局を書く。

7) 領域委員会 (2021 年 11 月 25 日) の報告

オンライン開催の是非を各領域で議論してほしいとのこと。

主な意見

- ・ 海外から参加しやすいので是非開催してほしい。学会のレベル維持のため必要。
- ・ 複数講演可能な秋季大会がオンラインだと別領域で講演しやすい。
- ・ オンライン開催は、子育て支援や男女共同参画の助けになる。
- ・ 事務手続きを考えると年度末の春がオンラインだと助かる。
- ・ 家庭の都合を考えると土日は避けてほしい。
- ・ オンラインでは学会からのサポートがなく役員の負担が大きい。

今後の予定として 2023 年春はオンライン開催となることが 12 月理事会で決定している。
2023 年は秋が年会になる。

8) 確認事項

メーリングリストの運用ルールが再確認された.

- ・ 添付ファイルは常識の範囲内で「1MB 以下の pdf」
- ・ 受賞報告を ML で配信可
- ・ 不適切なメールは領域 2 代表の責任下で役員会の了承のもと削除できる

9) 講演数の推移

前回 115 件 (一般講演のみ)

今回 105 件 (今回はシンポジウムが多い. 含めると 118)

10) 概要集提出率

97%

提出率は学会事務局から送られてくる. 概要を提出しなくても発表できる.

11) その他

国際会議 ICRP-11/GEC 2022 Joint Conf.が紹介された.

領域 2 に有益であるので, 運営会議, ML での広報は問題ない.

IUPAP100 周年と IYBSSD2022 が紹介された.

シンポジウムなどを開く場合には協賛してはどうか

懇親会

日時: 3月19日(土) 19:30-21:00 (運営会議終了後)

場所: オンライン

以上